

流山市と柏市の市境

1. はじめに
 私は柏市に住んでいましたが、一番近い小学校が流山市の小学校だったので、そこに通っていました。地図を見たときに、流山市と柏市の市境がとても入り組んでいることや、流山市の中に柏市があったりということを知り、なぜそのような地形になったのか、興味を持ったので、実際に行き調べてみることにしました。

2. 実際に訪問した場所と感想

① 流山市青田・江戸川台東と 柏市西原・みどり台

特にこれといった違いは感じることがなかったのですが、地図で見てみると交差点の部分のみ柏市で、流山市に挟まれるようになっていたので驚きました。

この交差点内が、柏市のくいなけ郡(柏市西原)を見た(柏市みどり台)

交差点は柏市だが信号機は流山市青田に設置されているため、流山市に属している

流山市青田から交差点を通り柏市西原を見る

② 流山市駒木と柏市高田

大堀川の土手のみが流山市でそれ以外は柏市の不思議な場所でした。近くに農産物直売所「かしわで」がありました。

大堀川の川辺(流山市駒木)流山市に属するが柵が柏市に設置されている

柵を下げた柏市農産物が埋められている

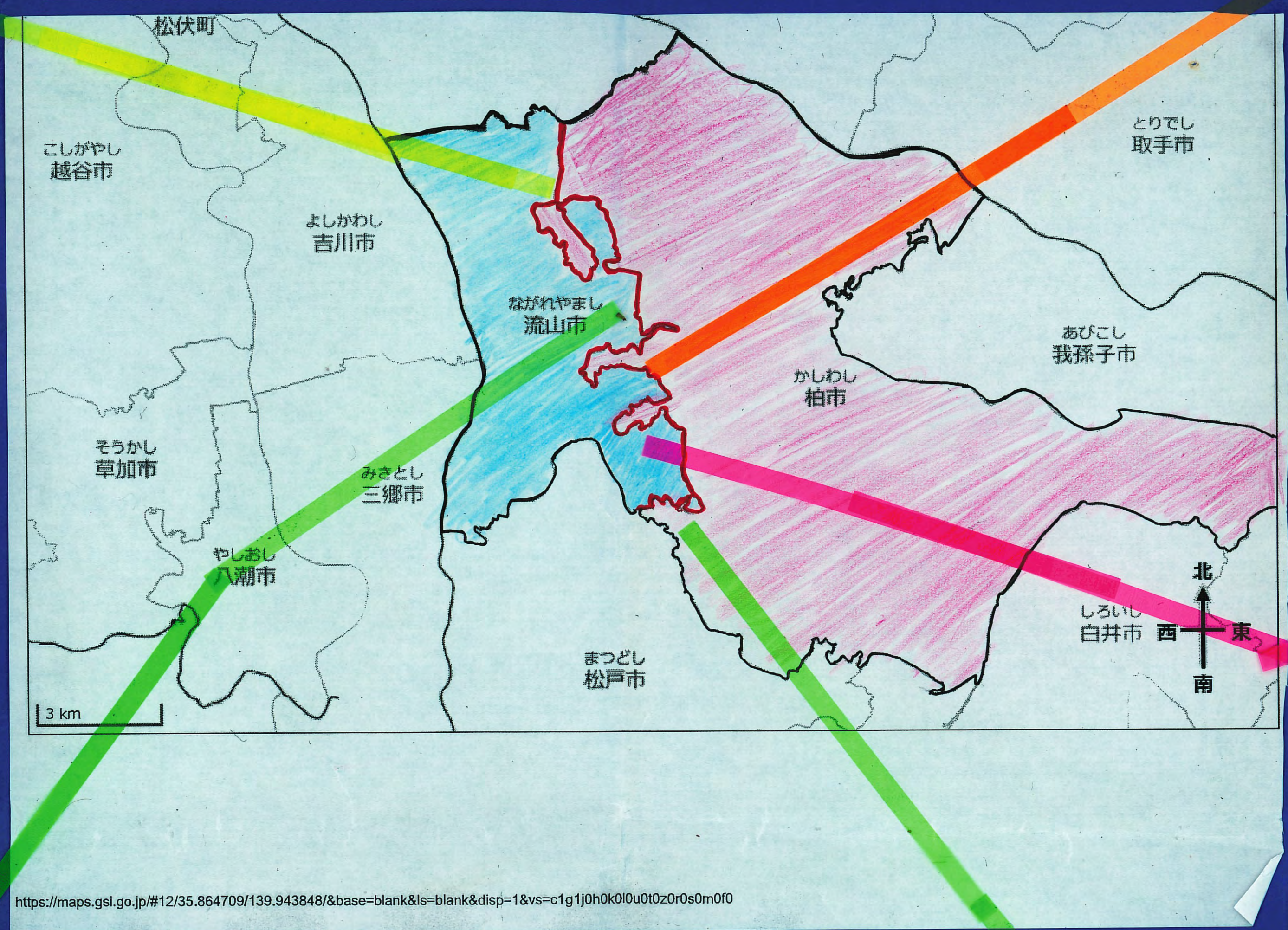
3. 考察

(1) 土地の高さ
 ③以外では、市によった違いは見られず、⑤を除いて流山市は低く、柏市は高台にあると思われました。そこで国土交通省の重ねるハザードマップで洪水リスクについてこの地域を調べてみました。また、国土地理院の地図から、それぞれの地域の高さも調べてみました。この地域では、流山市側には洪水リスクのある場所がありますが、柏市側は洪水リスクは見受けられませんでした。土地の高さだけでは、市境がこの位置になる理由にはならないように思われました。

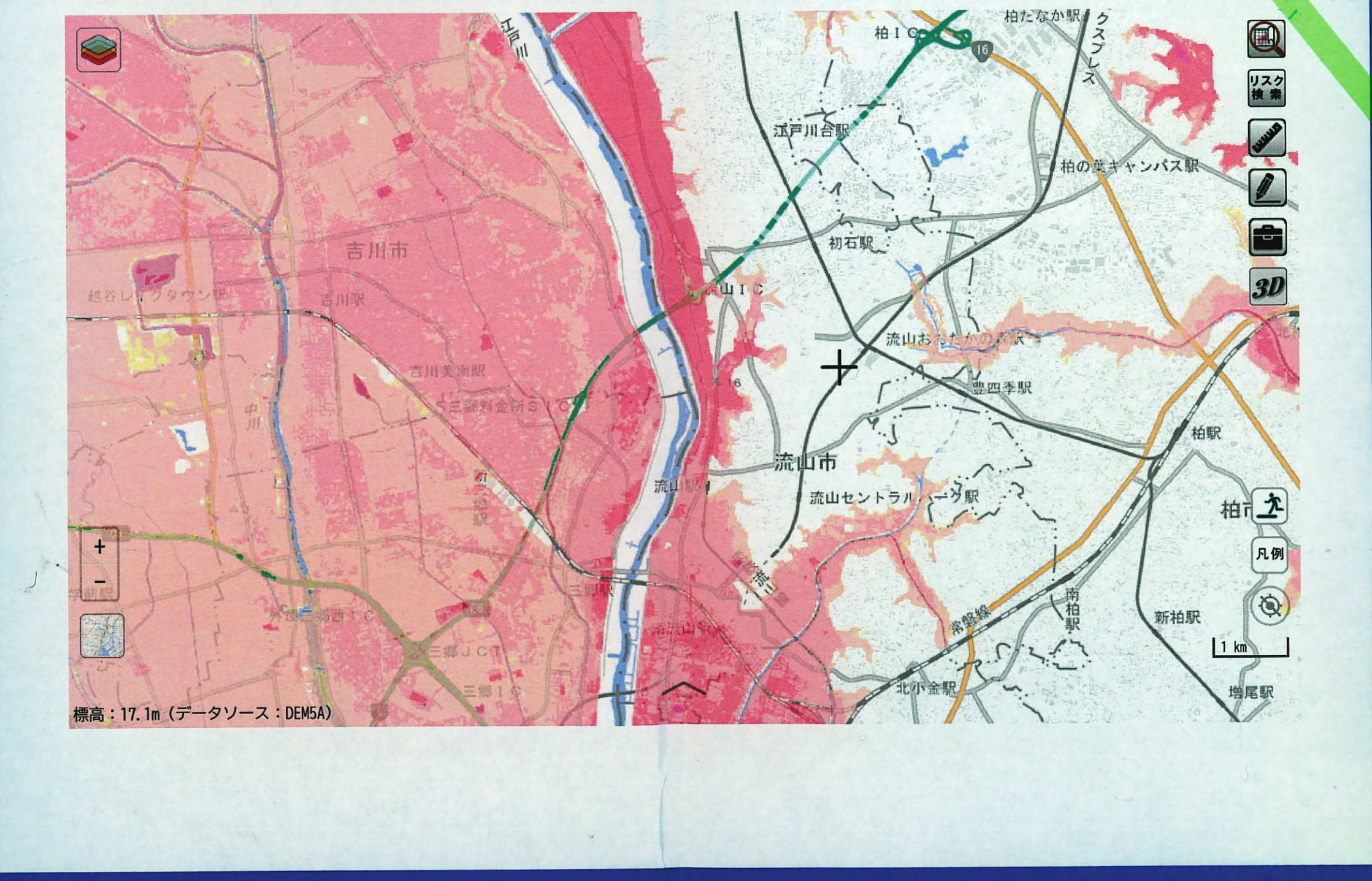
(2) 歴史的な地域の違い
 柏市側の流山市との市境付近の地域の多くは、明治時代になり、江戸時代まで幕府の放牧場「小金牧」だったものを開墾した土地でした。流山市は、江戸時代から江戸川の水運の要所であったほか白みりんの産地として栄えていた地域でした。近所のお年寄りのお話では、開墾地の人は、昔、流山の古くからの集落に受け入れてもらえず、自分達だけの神社を作ったという話を聞きました。

(3) 川や水路の影響
 ②と⑤は、どちらも川や水路の周辺だけが、周囲と異なる市になっていました。水と市境が何か関係があるのではないかと考えられました。

◆ 流山市と柏市の全貌と市境 (赤線部分)



◆ この地域のハザードマップ (洪水リスク) ~国土交通省 重ねるハザードマップより~



4. 感想

今回調べたところでは、市境は、地形によるといよりも、昔の事情や水などによって、ギザギザした形や飛び地のようになっているところが多かったのだと思いました。

③ 流山市野々下、おおたかの森南と 柏市豊四季

柏流山線の県道沿いを見に行きました。流山市まではガードレールと歩道があったのに、柏市に入ってからガードレールと歩道がなく、危ない道になっていました。

県道 柏流山線の柏市側は両側とも歩道がなく、とても狭い

県道 柏流山線では流山市のおおたかの森南に入ると歩道が消失して、これからは(流山市野々下側)歩道はない

④ 流山市前ヶ崎と柏市豊四季

柏市側は、丘になっていて、丘を下りた坂川の近くが流山市になっていました。

手前が流山市前ヶ崎。留柱のある所よりも奥は柏市豊四季

⑤ 流山市向小金と柏市中新宿

向小金の横にある小さな水路の部分が柏市であることが分かりました。近所の方に伺ったところ、柏市の所には池があり、水源の権利の関係で柏市になっていたらしいとのことでした。また、その池は、工事で埋め立てられることになるそうです。

新宿の池は、昔はあったらしいが、今は埋め立てられている

柏市の細い所を横断する水路には流山市のシガーが設置されている

右のエンズは、流山市向小金の池の築地中央の所で見つけた